

【国語科・小1（特別支援学級）・「かん字のはなし」】①

育成を目指す資質・能力

漢字の成り立ちを知る活動を通して、漢字に興味を持ち、絵から想像して漢字の読み方を理解できるようにする。

ICT活用のポイント

・学習課題への気付き（学習の個性化） ・試行錯誤 ・データ蓄積 ・思考の整理

事例の概要

【つかむ】

・本時のめあてをつかむ。

【追究する】

・教材文を読み、図カードを並びかえる活動を通して、漢字の成り立ちの過程を考える。

【まとめる】

まとめと振り返りを行う。

【事例におけるICT活用の場面①】

○漢字に対する興味や関心を持たせるために、自分や友達の名前に使われている漢字のカードを動かしたり、重ね合わせたりして、同じ漢字を見つける。また、教室の掲示物から同じ漢字を見つけ、写真に撮る。

〈学習課題への気付き（学習の個性化）〉

【事例におけるICT活用の場面②】

○漢字が表意文字であることを意識させ、漢字に対する興味や関心を持たせるために、図カードを試行錯誤しながら並びかえる活動を行い、象形文字や指事文字の成り立ちの過程をつかむ。 〈試行錯誤〉

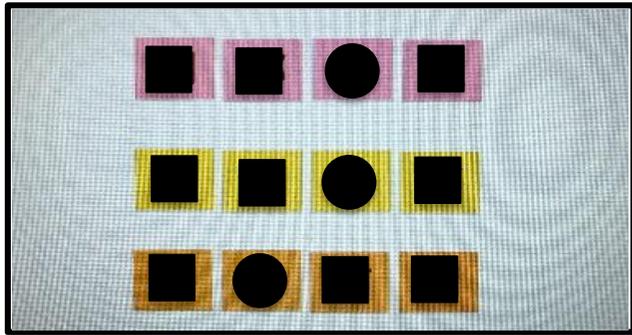
○教材文の内容をよりの確に理解するために、保存されている図（図カードを並びかえる活動の結果）を見直す。 〈データ蓄積〉〈思考の整理〉

【国語科・小1 (特別支援学級) ・「かん字のはなし」】②

【事例におけるICT活用の場面①】



T:自分の名前の漢字と友達の名前の漢字を見て、何か気が付きますか。



S:「●」という字が、一緒だ。教室の中に、ほかにも同じ漢字があるか、探してみたい。

- ホワイトボード機能を生かして、漢字のカードを実際に動かし、重ね合わせることで、同じ漢字を見つけることができた。
- 教室内にある掲示物から、同じ漢字を見つけて、写真に撮ることで、漢字に対する興味や関心を持つことができた。

【活用したソフトや機能】 ・ホワイトボード機能

【事例におけるICT活用の場面②】

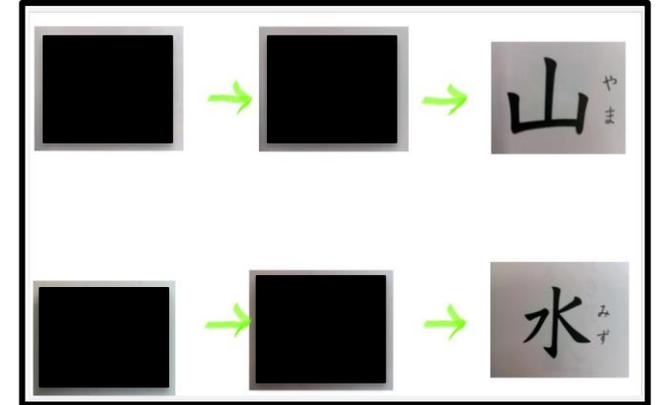


T:絵を並びかえて、「●」という漢字がどのようにできたか、考えてみましょう。



S:「山」「水」という漢字は、どのようにできたのかな。この順番でいいのかな。

- ホワイトボード機能を生かして、図カードを並びかえる活動を行うことで、象形文字や指事文字の成り立ちの過程を試行錯誤しながら、つかむことができた。その結果、漢字が表意文字であることを意識することができ、漢字に対する興味や関心が高まった。



S:教科書に書いてあったことが、よくわかったぞ。ほかの漢字も調べてみたいな。

- 図カードを並びかえる活動の結果は、データとして保存されているため、すぐに見直すことができ、再び教材文を読む場面でも、文章の内容を理解するために活用することができた。また、次時の学習でもすぐに振り返ることができるため、有効である。